

なつかしい夏

中津市長 奥塚 正典

子どもの頃いろいろ工夫して遊びました。大人用の自転車に小さな体で乗る方法があります。「三角乗り」です。昔の自転車は前部のフレームが正三角形に近い構造でしたので、そこに片足をいれてペダルを漕ぐのです。サドルには座らずに低い位置で自転車を体と反対側に傾け曲芸師のようにバランスを取りながら進みます。

魚釣りも竿だけですと釣り糸をあまり遠くに飛ばせません。そこで使うのがリール代わりに缶詰の缶です。糸を缶にぐるぐる巻いて糸先に大きめの鉛と針をつけて、鉛をボールのように魚がいそうなところまで投げます。エサのゴカイも自分で取りお手製の道具で「漁」に出かけるのです。

木登りも然りです。枝に足を乗せて上に進みます。高い所から見下ろすだけで楽しいのですが、上手になると大きな枝が数本張った場所にわらで編んだ縄や板切れも運び入れ、鳥の巣ならぬ「高層住処」を作るのです。一方、地上では藪の中で邪魔な草木を切り払い、周りからは見えない「隠れ家」を作り友達が集まって遊びます。

このほかにも木刀・竹刀や竹鉄砲作り、弾は木の実や濡らして丸めた新聞紙。蛇におびえながらもカブトムシ探しに草イチゴ取り。大きな蔓にぶら下がりターザンごっこ。こんな自然密着型で手づくりの遊びを年上の人からずいぶん教わりました。今の時代からするとけっこう冒険的で工夫を凝らした遊び上手ですね。



夏空

夏は毎日、入道雲が出て夕立が襲来しました。雷がゴロゴロなるとどうしてか「へそをとられるぞ。早く蚊帳に入れ」と家に駆け込むのです。夜になると「明日もラジオ体操、早く寝らんかね」と母の声。

今、子ども達は夏休み。お盆を前にふと子どもの頃を思い出しました。楽しくも胸がジーンとなる夏！